

---

# 波乱の大合戦

零鳴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

波乱の大合戦

### 【Nコード】

N7410P

### 【作者名】

零鳴

### 【あらすじ】

私 雪村千鶴は京でとある秘密を知ってしまい新選組に保護されることになってから数か月。

次第に隊の面々と仲が良くなってきたある日、局長の近藤さんが百人一首大会をやるうと言い出して・・・。

仕方ねえなと言う土方さん、近藤さんがそう言うならと笑みの沖田さん、無言の斎藤さん、えーっと声を揃える平助君と永倉さん、困った様子の原田さん、お茶を飲んでにこにこ笑っている山南さん。

でも、みなさんがやるのであれば私も張り切って頑張ります！！

## 悲劇の知らせ

私が京で新選組と生活することになってから数か月。周りに溶け込み始めた私は朝、広間でご飯を食べていると、近藤さんが急に立ち上がった、

「みんな聞いてくれ。このたび、百人一首大会をすることになった。日時はおって報告する以上だ。」

「ええっー。」

「まじかよっ。」

「・・・。」

「こりやあまた悪夢がよみがえるな。」

「近藤さんが言うなら。」

みなさん、何故か肩を落としています。そんなに百人一首が嫌いなのでしょうか？

「おいおい、近藤さんよそれは本気か？」

「トシ、本気もなにも毎年やってるじゃないか。だからだな、今年もやろうと山南君と決めたんだよ。」

「みなさん、頑張りましょうね。」

山南さんはお茶を一口含んでからにこやかに言った。

そうして、私たちは広間から出て行った。

## 優勝賞品の秘密 沖田編

朝食を食べ終わった後、歌を覚えるため自室にしていると突然襖が開いた。

襖の向こうに立っていたのは沖田さんだ。

「千鶴ちゃん、歌は覚えた？」

「いえ。まだ一つも・・・。」

「僕も覚えられていないんだ。土方さんの句なら覚えれるんだけど。」

「あの・・・沖田さんは何故こちらに？」

「君に何故みんなが嫌がった理由を教えたくて。」

沖田さんは何やら苦笑をして口を開いた。

「あのね、あの大会で優勝しても喜ぶのは一君か僕くらいだよ。だって、あの優勝賞品は・・・。」

「おい、総司！俺の句集を返せ。」

怒鳴り声が聞こえた方を向くと土方さんが血相を変えて立っていた。今にも殴りかかってきそうな勢いだ。

「あれえ、土方さんどうしたんです？そんなに血相なんか変えて。」

「というや否や沖田さんは走って逃げて行った。追おうと走っていく土方さん。」

一体、どうしたのだろうか？

（結局・・・話は聞けませんでした・・・とても気になります。）

とにかく、今は歌を覚えようかな。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7410p/>

---

波乱の大合戦

2011年10月7日10時41分発行